

政治的圧力で歪められた学習指導要領を子どもたちの中に持ち込むことに強く抗議し、 そのすみやかな撤回を文部科学省に求めます

—小中学校の新学習指導要領官報告示にあたっての声明—

2008年3月31日

日本高等学校教職員組合中央執行委員会

- 1 文部科学省は3月28日、小中学校の新学習指導要領を官報告示しました。これは2月15日に示された学習指導要領案に対し、1ヵ月余のパブリック・コメントを経て告示されたものです。しかし、マスコミからも「文科省は『改正教育基本法の趣旨をより明確にする』ため異例の修正に踏み切った」（3月28日付「朝日」）と指摘されているように、明らかに学習指導要領案よりさらに踏み込んだものになっています。これは広範な国民や、子どもたちの教育を司る全国の教職員に対する説明責任を果たさず、密室での修正によって教育を歪めるものであり、日高教は文部科学省に強く抗議します。
- 2 学習指導要領案からの修正は181カ所にのぼります。その中には以下にあげるように、改悪教育基本法が教育の目標として掲げる「愛国心」を露骨におしつけるなど、重大な問題点があります。
 - (1) 総則の「第1 教育課程編成の一般方針1」に、「これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする」を追加しています。これは学校教育を国家が掲げる目標に従属させ、それによって学校教育を点検しようとする意図をより明確にしたものです。
 - (2) 同じく総則の「一般方針2」に、「(伝統と文化を) 尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し…」という文言を入れ、「愛国心」のおしつけをより露骨にしています。
 - (3) さらに総則の「第3 授業時数等の取扱い1」に、「夏季、冬季、学期末等の休業日の期間に授業日を設定する場合を含め」を入れ、長期休業期間を短縮して授業を行うことを求めています。
 - (4) 小学校の国語では、「昔話や伝説」を「昔話や神話・伝承」とあたため、音楽では「君が代」を「いずれの学年においても指導する」を「いずれの学年においても歌えるよう指導する」と変更しています。総則と同様、「愛国心」のおしつけを一步も二歩も踏み込んですすめる姿勢を露骨にしています。これは「君が代」を無理やり歌わせるというもので、「国旗・国歌法案」審議の際に「口をこじ開けてまで（君が代を）歌わせる、これは許されない」（1999.7.21有馬文相〔当時〕）としていた政府答弁に明確に反し、子どもたちの内心に土足で踏み込むものです。
 - (5) 中学校社会科では、「我が国の安全と防衛及び国際貢献について考えさせる」として、「国際貢献」という文言を追加しています。この文言は明らかに自衛隊の海外活動を意味するものであり、きわめて政治的な意図を持つものです。
- 3 こうした「異例の修正」の背景には、日本の侵略戦争を美化し国家主義復活を掲げる勢力の政治的圧力が働いていることは明らかです。「日本教育再生機構」や「日本会議国会議員懇談会」などが改訂案に対して強い不満を表明し、文部科学省に圧力をかけていたことが報道されています。これは、中国人監督がつくったドキュメンタリー映画「靖国 YASUKUNI」が、自民党議員らの圧力で上映中止の動きがあることと軌を一にします。安倍政権の崩壊で打撃を受けた勢力の巻き返しをねらうものであり、断じて許せません。同時に、今回の修正によって、国家の目標に学校教育を従属させ、子どもたちを鋳型にはめるやり方を強引にすすめる改悪教育基本法のねらいが、憲法の原則とも矛盾し、教育の条理をも破壊するものであることがいよいよ明確になりました。
- 4 日高教は、このような政治的圧力で歪められた学習指導要領を子どもたちの中に持ち込むことは、断じて許されないと考えます。そして文部科学省に対してその白紙撤回と、憲法と教育の条理にもとづくまともな教育行政の推進を求めるとともに、学校と地域を足場に、学習指導要領に対する徹底した批判活動をすすめ、子どもや父母・住民と力を合わせた学校と教育を創造していくため、全力をあげてとりくむ決意を表明します。

以上